

(様式1)

平成23年度
研究助成報告書

提出日 平成24年2月27日

研究の種類

共同研究(含む海外) ・ 個人研究 ・ 出版助成

研究課題名

古代日本における音数律と漢字の出会い

研究代表者及び研究分担者(所属・職名・氏名)

文芸学部・准教授・遠藤 耕太郎

文科・教授・岡部 隆志

研究期間(当該年度期間に何時何処でどんな事をしたか、年間スケジュールを記入)

研究会(古代の会)活動報告

2011年4月30日 14:00~18:00 南詔徳化碑・「柳蔭記」精読

5月21日 14:00~18:00 南詔徳化碑・「柳蔭記」精読

5月29日 全国漢文教育学会口頭発表(遠藤)

6月18日 14:00~18:00 南詔徳化碑・「柳蔭記」精読

7月30日 14:00~18:00 南詔徳化碑・「柳蔭記」精読

8月9日~22日 中国雲南省での現地調査*

8月18日 楚雄師範学院開催シンポジウム口頭発表(岡部)

9月24日 14:00~18:00 南詔徳化碑・「柳蔭記」精読

10月15日 14:00~18:00 南詔徳化碑・「柳蔭記」精読

11月26日 14:00~18:00 南詔徳化碑・「柳蔭記」精読

12月3日 14:00~18:00 南詔徳化碑・「柳蔭記」精読

1月28日 14:00~18:00 南詔徳化碑・「柳蔭記」精読

2月25日 14:00~18:00 南詔徳化碑・「柳蔭記」精読

*中国雲南省での現地調査

8月9日 成田→麗江

8月10~16日 大理にて大本曲調査

8月17~19日 楚雄師範学院にてシンポジウム

8月20日 大理にて大本曲調査

8月21日 大理→昆明

8月22日 昆明→成田

(様式2)

研究組織 [氏名, 所属, 役割分担]
(共同研究のみ記入) 遠藤耕太郎 文芸学部 現地調査・ペー族の音数律と漢字との関わり 岡部隆志 文科 現地調査・古代日本の音数律と漢字との関わり
研究発表 (印刷中も含む) 雑誌及び図書
全国漢文教育学会口頭発表 (遠藤) を、「新しい漢文教育」第53号 (2011年11月) に「アジア辺境国家の君主号」と題して論文化した。 楚雄師範学院開催シンポジウム口頭発表 (岡部) を、「紀要 (共立女子短期大学文科)」55号 (2012年1月) に「問答論—彝族の神話「梅葛」と折口信夫の問答論—」と題して論文化した。

(様式3)

研究実績の概要

月に1回の研究会(古代の会)で、南詔徳化碑、大本曲「柳蔭記」を精読した。8月9日～22日に中国雲南で現地調査。また5月29日全国漢文教育学会で「星回節唱和詩」についての口頭発表を行った。少数民族(辺境民族)が中華の文字を用いて自らの言語を、文芸を記述する様態を具体的に捉えることができた。

全国漢文教育学会口頭発表(遠藤)は、「新しい漢文教育」第53号(2011年11月)に「アジア辺境国家の君主号」と題して論文化した。

楚雄師範学院開催シンポジウム口頭発表(岡部)は、「紀要(共立女子短期大学文科)」55号(2012年1月)に「問答論—彝族の神話「梅葛」と折口信夫の問答論—」と題して論文化した。

現在、8月の現地調査を踏まえ、大本曲「柳蔭記」の中国語への翻訳済み資料について、日本語への翻訳を付し、分析を施している。また、山花碑、南詔徳化碑、柳蔭記についての論考を各自が作成中である。